

とやま呉西圏域R6 調査研究事業報告会

2025年5月30日（金）
15:00～15:30

富山短期大学
東野 善男



①	調査研究名	空き店舗における持続可能なサービス実現に向けたイノベーション創出の実証的研究
②	調査研究内容	本研究では、商店街を活性化させる手段として、「みんなの図書館さんかく」(静岡県)をはじめとしたまちライブラリーによる空き店舗活用事例を研究対象として調査した。
(1) 第一フェーズ・・・「商店街」視察・見学 (2) 第二フェーズ・・・「まちライブラリー」視察・見学 (3) 第三フェーズ・・・「講演会」←「商店街」と「まちライブラリー」をつなぐきっかけ		

とやま呉西圏域R6調査研究事業

都道府県名		人口 (2023年度)	店舗数 (2020年度)	店舗数 (2022年度)	1万人当たりの 店舗数	1万人当たりの 坪数
①	富山県	1,008,804	105	100	0.99 ②	107.7 ②
②	石川県	1,100,686	130	111	1.01 ①	88.9 ④
③	福井県	744,065	69	62	0.83	72.0
④	新潟県	2,145,151	207	193	0.90	102.0 ③
⑤	山形県	1,034,444	90	85	0.82	70.4
⑥	宮崎県	1,060,679	58	54	0.51	56.4
⑦	東京都	13,260,553	1,000	883	0.67	54.0
⑧	神奈川県	8,972,702	484	458	0.51	41.6
⑨	香川県	942,034	98	90	0.96 ④	128.2 ①
⑩	長崎県	1,295,076	68	63	0.49	41.3

日販「出版物販売額の実態2023」

出版業界が大きく変化してきていることを橘川幸夫氏は次のように指摘している

既存の書店が次々と廃業しています。それは、人々の「**本離れ**」ではなく、戦後社会が生んだ、**大量生産・大量流通**の構造が終わりに近づいているのだと思います。実際に、古い書店は閉店していきませんが、さまざまな場所で、**シェア図書館**や**シェア書店**、マンガ喫茶や**ブックカフェ**が増殖しています。・・・大量生産・大量販売の紙コンテンツは、ネットや電子書籍が吸収し、ネットや電子書籍では伝えきれないものが、**小さな本のある空間**で、人々とつながりはじめたのではないのでしょうか。

小矢部市内には新刊書店や市民図書館もある中で、
まちライブラリーの果たす役割は、
個別最適なサービスにあるのではないだろうか。

2004年度の富山県内においては、文苑
堂野村店・魚津サンプラザ店が閉店する
一方で、書店併設型店舗である**ローソン**
立山町役場店が新規オープンしている。
文苑堂書店は新たに「**ガチャブック**」に取り
組み、本の魅力を発信している。

(1)	第一フェーズ	商店街関係者を通じて、小矢部市民の「本」への要望を聞き取り、商店街利用に結びつける場所を下記の2か所選定することができた。
①	小矢部市商工会	小矢部市商工会が管理しているコミュニティビル・地域交流拠点「 める・びる 」の2階にシェア本棚（一箱本棚）を設置することができる
②	NPO法人石動まっちゃプロジェクト	NPO法人石動まっちゃプロジェクトが管理している 空き店舗 を賃借することができる

とやま呉西圏域R6調査研究事業

(2)	第二フェーズ	「まちライブラリー」を視察・見学し、空き店舗の使い方、図書館のつくり方などについて関係者(「みんとしょ」運営者やアンバサダーなど)へのインタビューに取り組んだ。
①	2024年9月19日(木) ブックハウスカフェ(東京都)	講演会: 本の街神保町で、日本と世界の『本のある場』を考える 講演者: 礒井純充氏 (まちライブラリー提唱者)
②	2024年11月24日(日) みんなのヨリミチ図書館(新潟県)	講演会: 本でまちに開く場をつくろう! 講演者: 礒井純充氏 土肥潤也氏 (みんなの図書館さんかく館長)

とやま呉西圏域R6調査研究事業



BOOKなゲストを
迎えた交流会

本でまちに 開く場を つくろう!

2024 11月24日 日



ゲスト
一般社団法人トリナス代表理事
土肥潤也氏
どひ じゅんや



ゲスト
一般社団法人まちライブラリー
磯井純充氏
いそい よしみつ

本のチカラは、無限なのだ。

18:00～20:30 参加費 4,500円 (アルコール・ソフトドリンク)
フリードリンク / 軽食付き (学生はおひとり3,000円)
新潟駅南口 (CoCoLo南口1階) Sea Point NIIGATA × MOYORE: にて

主催: 小さなみんなの図書館 hitohako Base お問い合わせは Instagram まで

Instagram



②新潟市(2024年11月24日撮影)

(3)	第三フェーズ	2025年3月8日(土)、小矢部市民図書館にて、講演会を開催した。「本のある場の力を知る」と題して、講師には、まちライブラリーの提唱者である礒井純充氏を招へいた。地域住民へのチラシ、市広報誌、SNSによるPRを行ったところ、30名以上の参加者があった。
-----	--------	--

とやま呉西圏域R6調査研究事業

講演会

本のある場の 力を知る

2025年 3月 8日(土)

13:30~15:00 (90分)

場 所 小矢部市民図書館
2 F 研修室

講 師 礒井 純充 氏

(まちライブラリー提唱者)

本・図書館・まちづくりに興味のある方は
ぜひご参加ください



東野ゼミの
X(旧ツイッター)



東野ゼミの
Instagram



主催：富山短期大学経営情報学科 東野ゼミ

後援：小矢部市



講師の紹介



いそい よしみつ
礒井 純充 氏

1958年大阪市生まれ。

大阪府立大学大学院経済学研究科博士後期課程修了。経済学博士。

1981年、森ビル株式会社に入社し「アーケ都市塾」「六本木アカデミーヒルズ」などの
文化・教育事業に従事。取締役広報室長などを歴任。

2011年に「まち塾@まちライブラリー」を開始。以降、「まちライブラリー」の
提唱者として活動の運営・サポートを行う。

2024年、第24回図書館サポートフォーラム賞を受賞。

著書に、『マイクロ・ライブラリー図鑑』（まちライブラリー、2014）『本で人をつなぐ
まちライブラリーのつくりかた』（学芸出版社、2015）『ブックフェスタ 本の磁力で地域
を変える』（共著、まちライブラリー、2021）『「まちライブラリー」の研究——「個」が
主役になれる社会的資本づくり』（みすず書房、2024）などがある。

参加方法

参加申込：QRコード

小矢部市民図書館カウンターでも可

参加費：無料

定員：40名

(事前申込必要)



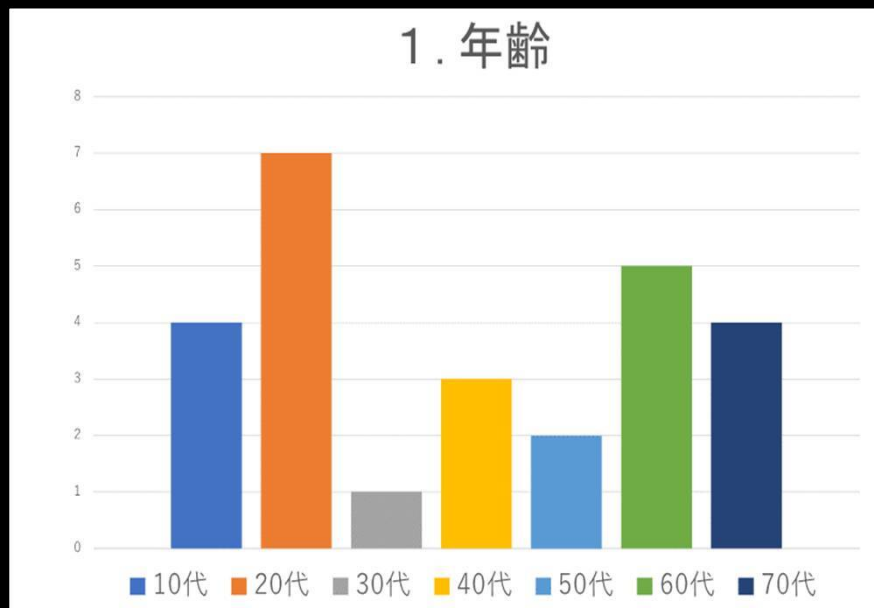
参加申込
QRコード



お問い合わせ 富山短期大学
経営情報学科事務局

TEL 076-436-5146
Email: keijo@toyama-c.ac.jp

とやま呉西圏域R6調査研究事業



参加者の年齢層は20代・60代が多く、各年代が見られる。

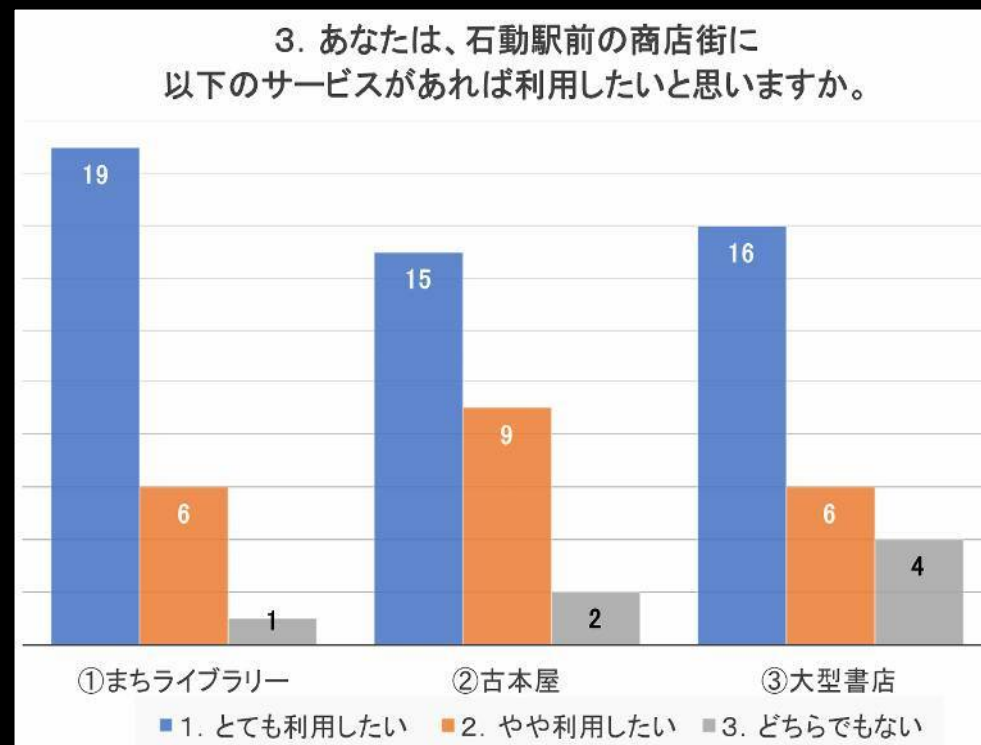
住んでいる地域は小矢部市が27%、呉西圏域が58%であった。

とやま呉西圏域R6調査研究事業

(判明した地域課題や状況)
参加者アンケート(N=30、n=26)によると、小矢部市における潜在ニーズを以下の通り把握した。

①参加者の「本」への要望

まちライブラリーを「とても利用したい」という回答が7割以上になった。

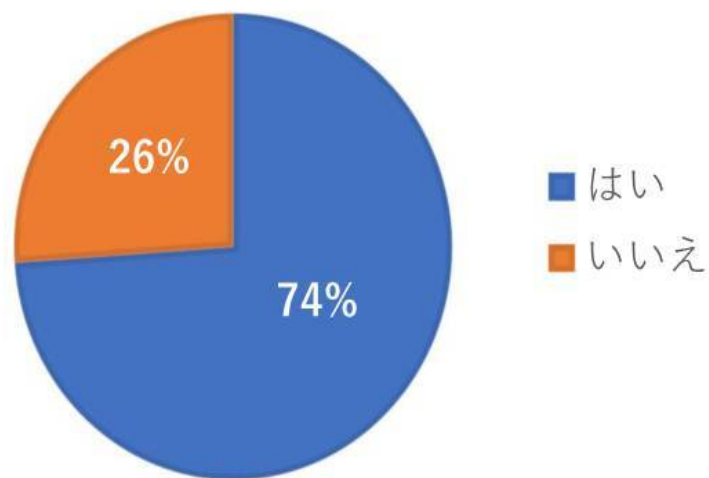


とやま呉西圏域R6調査研究事業

(判明した地域課題や状況)

②シェア本棚(一箱本棚)のオーナー

4. あなたは、一箱本棚のオーナーになってみたいと思いますか。



一箱本棚を利用するだけでなく、有料のオーナーになってみたいとの回答が多くあった。一箱本棚の設置には期待ができる。

とやま呉西圏域R6調査研究事業

今後は、関係者の協力のもと、まちライブラリーの「核店舗」としての可能性を探る。実証実験を通して、商店街のサービス改善に寄与したい。

今年度は取り組めなかったが、商店街で本を貸出することによって、地域の書店に影響を及ぼし、小規模な書店が苦戦する可能性もある。また、品揃えによっては書店や図書館に影響を与えることも考えられるため、この点も調査したい。

調査研究の成果

以下の2点について実証実験として取り組み、
富山県内はもとより、
県外でも事例発表を予定している。

実証実験	場所	内容
①シェア本棚	める・びる	学校図書館との共催 オーナーの募集
②まちライブラリー	空き店舗	ボランティアの募集 図書資料の準備

小矢部市の恒例行事であった「火牛まつり」は34年の歴史に幕を下ろした。まちのにぎわいづくりは継続力、すなわち**若者のやる気と参加**が必要である。

シェア本棚の取り組みは中学生にも可能である。実際に石動高校と大谷中学校の学校司書に問い合わせてみたところ、学校図書館での取り組みに対して了承いただいている。もちろん短期大学生も取り組み可能である。